

左京三条一坊の調査

—第379次

はじめに

この調査は、店舗新築にともなう事前の調査として実施した。調査地は左京三条一坊十五坪の南端付近にあたる。東側の隣接地はすでに奈良市教委によって発掘調査がおこなわれている（奈良市94次）。調査面積は96.0㎡。調査期間は2004年10月18日～10月29日である。

基本層序は上層から順にバラス層、造成土、旧耕作土、黄灰色砂質土、暗紫灰色粘土と続く。このうち、黄灰色砂質土以下の土層は奈良時代の遺物を含む整地土である。これより下層は遺物を含まない砂混じり灰白色シルト層となる。遺構検出面は暗紫灰色粘土の上面で、その標高は約60.7mであった。なお、暗紫灰色粘土層に含まれる遺物はごくわずかである。

検出遺構

黄灰色砂質土直下で検出できた遺構は、配置に規則性が認められない小土坑と、調査区内を縦横に走る十数条の溝のみである。奈良市94次調査では、奈良時代の掘立柱建物・井戸等が検出されているが、今回の調査ではそ

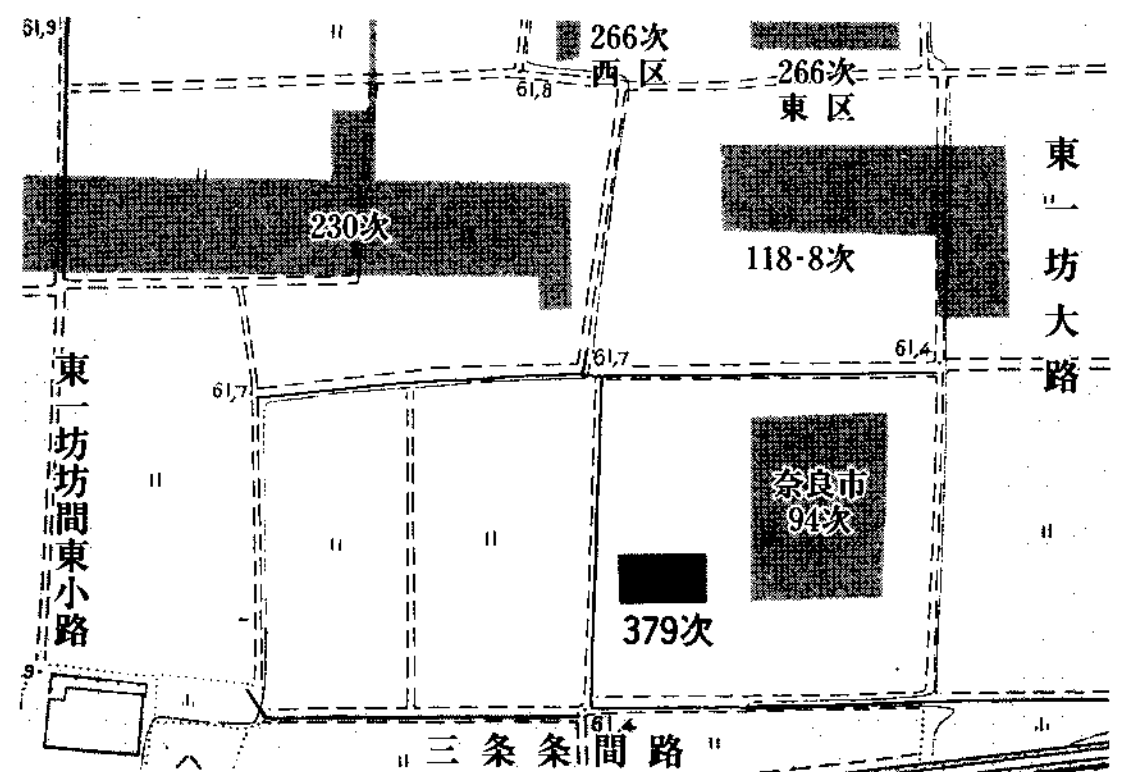


図173 第379次調査位置図 1:1000

のような遺構を確認することができなかった。なお、調査区東南部は自然流路SD8925にあたり、断面観察では粘土と砂の互層の堆積が認められた。前述の小土坑・溝は、重複関係からみて、この流路よりも新しいことがわかる。

出土遺物

奈良時代の遺物は主として黄灰色砂質土から出土した。土器は出土点数のうち2/3ほどを須恵器が占める。また、土師器はほとんどが細片である。須恵器には杯B・同蓋・甕類が含まれる。このほかに、ES27区・暗紫灰色粘土からは完形の磚が出土している。（森川 実）

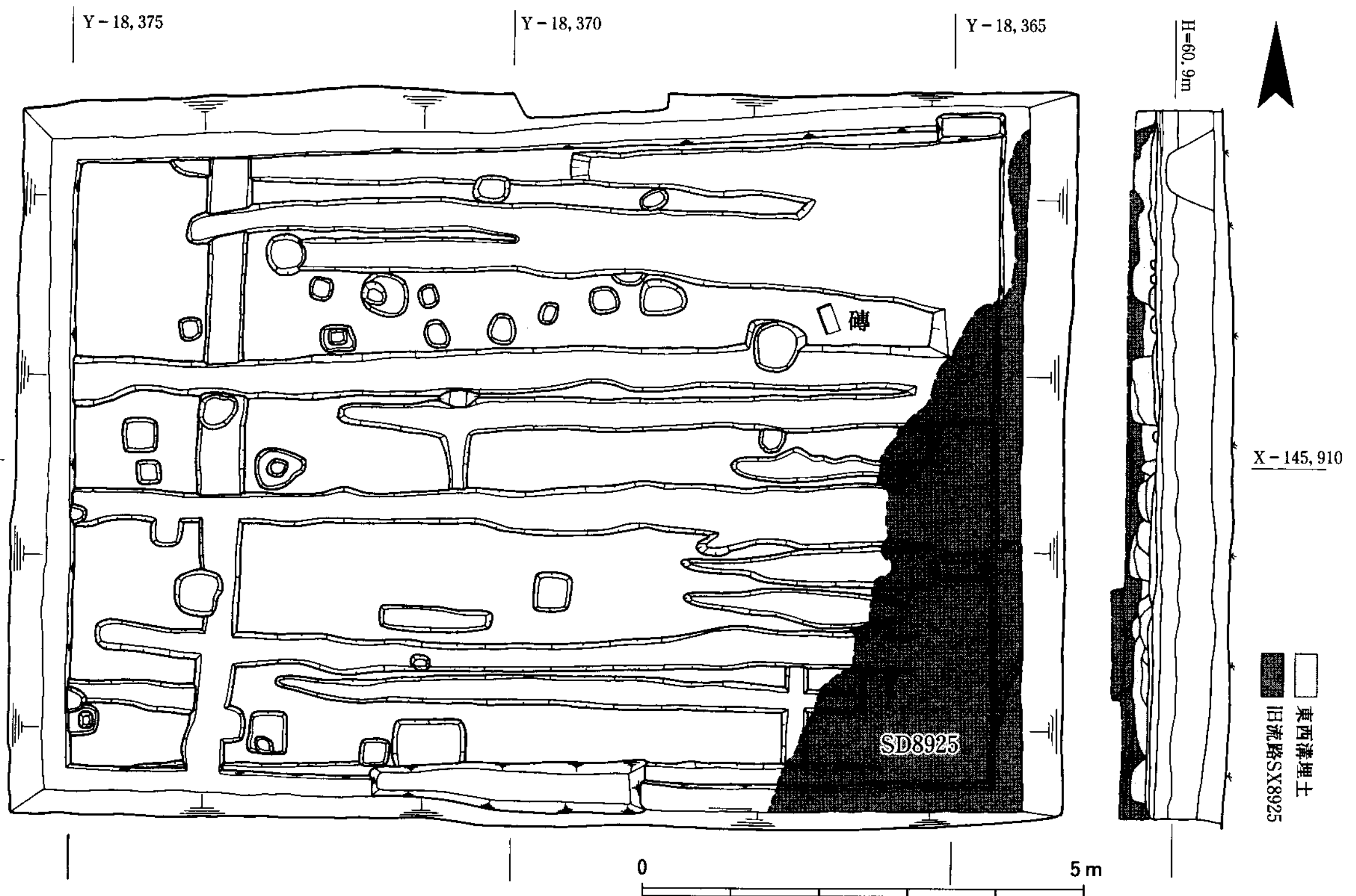


図174 第379次遺構平面図・断面図 1:100